

## どうなる！？2025大阪万博

NHK 大阪に「かんさい熱視線」という番組がある。先週の金曜日、標題の特集が放送され、写真を撮りながら視聴した。

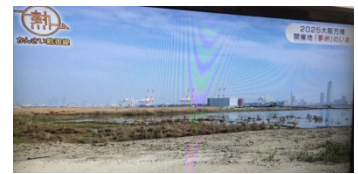
大阪万博誘致決定から、万博のテーマなど、万博をヨイショするような場面が目立ったが、最後の「今後の課題は!？」に注目。写真は、その時の映像を慌てて撮ったものだ。

万博の会場予定地は、大阪湾の人工島・夢洲の赤く塗られた部分、約155ヘクタール。黄色のIRという名のカジノ予定地が、万博会場隣にどんと構える。その手前は、コンテナターミナルが並んでおり、多くのトラックが走っている。

この夢洲は一般ないし産業廃棄物、陸上発生残土、浚渫土砂などで埋め立て中である。このまま埋め立てを実施すると、2025年の万博に間に合わない。工事担当者は「新たに土砂を購入して急ピッチに工事を進めていきたい」と語る。

廃棄物ではなく、土砂を購入しての土地造成となり、埋め立てコストの上昇は避けられない。万博開催の費用にも注目したい。会場建設費1248億円とある。「この金額は国内開催の過去の万博の例をもとに算出されたもので根拠のある数字とは言い難く、今後膨張する可能性もある」（日本経済新聞11月30日）。会場運営費も、想定入場者による入場料収入などを、あてにしている。問題は関連事業費、アクセスである。地下鉄の中央線を会場予定地近くまで延伸させる計画。この資金の一部をIR=カジノ事業者に求める予定という。カジノ頼みの万博であることを象徴するものだ。

今後のスケジュールによると、年末に組織を立ちあげ、2020年5月に万博の具体的計画を定めた「登録申請書」をBIEに提出するという。愛知万博は誘致「成功」から3年後に、BIEなどの激烈な批判により、会場が抜本的に変更された。さて、大阪「カジノ万博」は愛知万博以上に厳しく、迷走を続けるのではないかと。



どうなる!? 2025大阪万博

今後の課題は!?

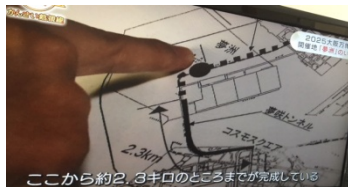
万博開催予定地は

大阪湾の人工島 夢洲
大きさ 約390ヘクタール 中予備100億円
万博予定地 約155ヘクタール
IR予定地 約70ヘクタール

万博開催の費用は

夢洲(会場予定地)埋め立ての追加費用 50億円
会場建設費 1,248億円
関連事業費 730億円
会場運営費 820億円

入場料 無料(飲食等以上は一部有料)



今後のスケジュール

12月	大阪万博実行組織 立ち上げ
2019年度	大阪府・市が IR事業者決定
2020年 5月	万博の具体的計画を定めた「登録申請書」をBIEに提出
2024年	IR開業?
2025年 5月	大阪万博開催

(2018年12月6日)